

青森県経済統計報告

平成 23 年 2 月 4 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 23 年 1 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,371,294 人（対前月 586 人減少）
自然動態	575 人減少（出生者数 742 人、死亡者数 1,317 人）
社会動態	11 人減少（転入者数 1,151 人、転出者数 1,162 人）

2 本県の経済動向（平成 22 年 11 月・12 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、生産面に改善の動きが続いているほか、雇用面・消費面の一部に持ち直しの兆しがうかがわれる。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 22 年 11 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済指数が 102.7 で、前月比 8.3%の上昇となり、4 ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 108.7 で、前年同月比 9.7%の上昇となり、12 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成 22 年 11 月の定期給与は 222,521 円で前年同月比 1.7%増となった。総実労働時間は 158.2 時間で前年同月比 0.9%増、所定外労働時間は 10.3 時間で前年同月比 17.0%増となった。平成 22 年 12 月の有効求人倍率(季節調整値)は 0.42 倍で、前月比 0.02 ポイント上回った。 … 3
- (2-3) 物 価 平成 22 年 12 月の青森市消費者物価指数(平成 17 年=100)は、総合指数が 99.9 となり、前月及び前年同月とも同水準となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成 22 年 11 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 130 億 4300 万円 で前年同月比 1.8%増となり、4 ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは 1.1%増となり、4 ヶ月連続で前年同月を上回った。平成 22 年 12 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 2,100 台で、前年同月比 23.3%減となり、4 ヶ月連続で前年同月を下回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成 22 年 12 月の新設住宅着工戸数は 375 戸で、前年同月比 38.1%減となり、2 ヶ月連続で前年同月を下回った。 … 6
- (2-6) 電 力 平成 22 年 12 月の大口電力使用量は 2 億 4,200 万 kWh で、前年同月比 使用量 17.9%増となり、12 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 6

（3）景気動向指数（平成 22 年 11 月分）…………… 7

先行指数	33.3%（2 か月ぶりに 50%を下回った）
一致指数	75.0%（2 か月ぶりに 50%を上回った）
遅行指数	50.0%（3 か月ぶりに 50%を上回った後 50%となった）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 23 年 1 月期）…………… 8

3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I ……	46.2（前期比 3.8 ポイント増、14 期連続で 50 を下回る）
3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I ……	49.5（前期比 5.6 ポイント増、3 期連続で 50 を下回る）

1 青森県の推計人口（平成23年1月1日現在）

【概況】

平成23年1月1日現在の本県推計人口は、1,371,294人で、前月に比べ586人の減少となった。

○自然動態

出生者数が742人、死亡者数が1,317人で、575人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,151人、転出者数が1,162人で、11人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数			社会増減数	社会増減数	
		男	女			出生者数	死亡者数	県外からの転入者数		県外への転出者数	
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.1.1	1,380,834	648,752	732,082	-0.041%	-566	-537	781	1,318	-29	1,163	1,192
22.2.1	1,379,828	648,207	731,621	-0.073%	-1,006	-730	745	1,475	-276	1,090	1,366
22.3.1	1,379,086	647,769	731,317	-0.054%	-742	-480	763	1,243	-262	1,063	1,325
22.4.1	1,373,997	645,072	728,925	-0.369%	-5,089	-600	847	1,447	-4,489	4,069	8,558
22.5.1	1,373,690	644,945	728,745	-0.022%	-307	-502	835	1,337	195	4,025	3,830
22.6.1	1,373,132	644,688	728,444	-0.041%	-558	-459	835	1,294	-99	1,311	1,410
22.7.1	1,372,661	644,444	728,217	-0.034%	-471	-410	879	1,289	-61	1,281	1,342
22.8.1	1,372,201	644,184	728,017	-0.034%	-460	-382	845	1,227	-78	1,681	1,759
22.9.1	1,371,674	643,932	727,742	-0.038%	-527	-637	826	1,463	110	1,977	1,867
22.10.1	1,373,200	-	-	0.111%	-409	-487	810	1,297	78	1,571	1,493
22.11.1	1,372,608	-	-	-0.043%	-592	-425	820	1,245	-167	1,373	1,540
22.12.1	1,371,880	-	-	-0.053%	-728	-689	765	1,454	-39	1,216	1,255
23.1.1	1,371,294	-	-	-0.043%	-586	-575	742	1,317	-11	1,151	1,162

12月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平12.12	13.12	14.12	15.12	16.12	17.12	18.12	19.12	20.12	21.12	22.12
自然動態	出生者数	1,015	976	898	896	879	790	786	769	813	781	742
	死亡者数	1,065	1,192	1,162	1,144	1,222	1,208	1,289	1,303	1,349	1,318	1,317
	自然増減数	-50	-216	-264	-248	-343	-418	-503	-534	-536	-537	-575
社会動態	県外からの転入者数	1,433	1,497	1,370	1,364	1,275	1,184	1,212	1,162	1,265	1,163	1,151
	県外への転出者数	1,385	1,370	1,612	1,531	1,419	1,484	1,349	1,412	1,423	1,192	1,162
	社会増減数	48	127	-242	-167	-144	-300	-137	-250	-158	-29	-11
増減数計		-2	-89	-506	-415	-487	-718	-640	-784	-694	-566	-586

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口（確定値）

※2 平成22年1月1日から平成22年9月1日までの人口は平成17年国勢調査人口（確定値）を基礎に、平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査要計表速報値（平成22年11月末集計）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 平成22年10月1日現在の人口は、平成22年国勢調査要計表速報値（平成22年11月末集計）を用いているため、9月1日現在推計人口に9月中の増減数を加えた数値とは一致しない。

※5 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

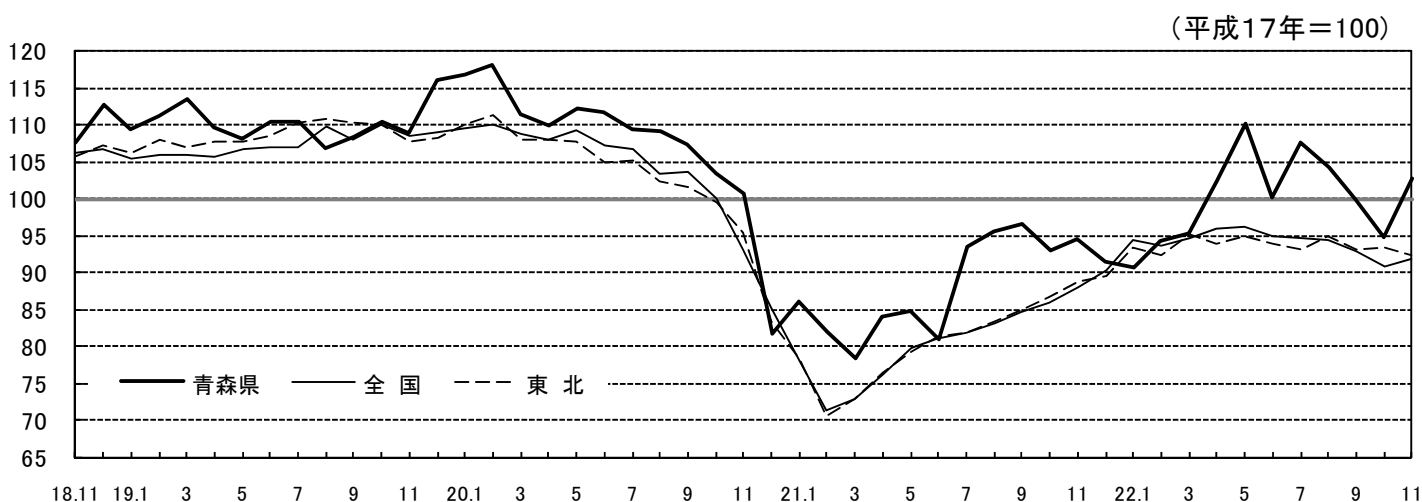
(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

平成22年11月の青森県鉱工業生産指数(平成17年=100)は、季節調整済指数が102.7で、前月比8.3%の上昇となり、4ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は108.7で、前年同月比9.7%の上昇となり、12ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、電気機械工業、鉄鋼業などが上昇に寄与した一方、食料品工業、一般機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが低下し、鉱工業全体では8.3%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

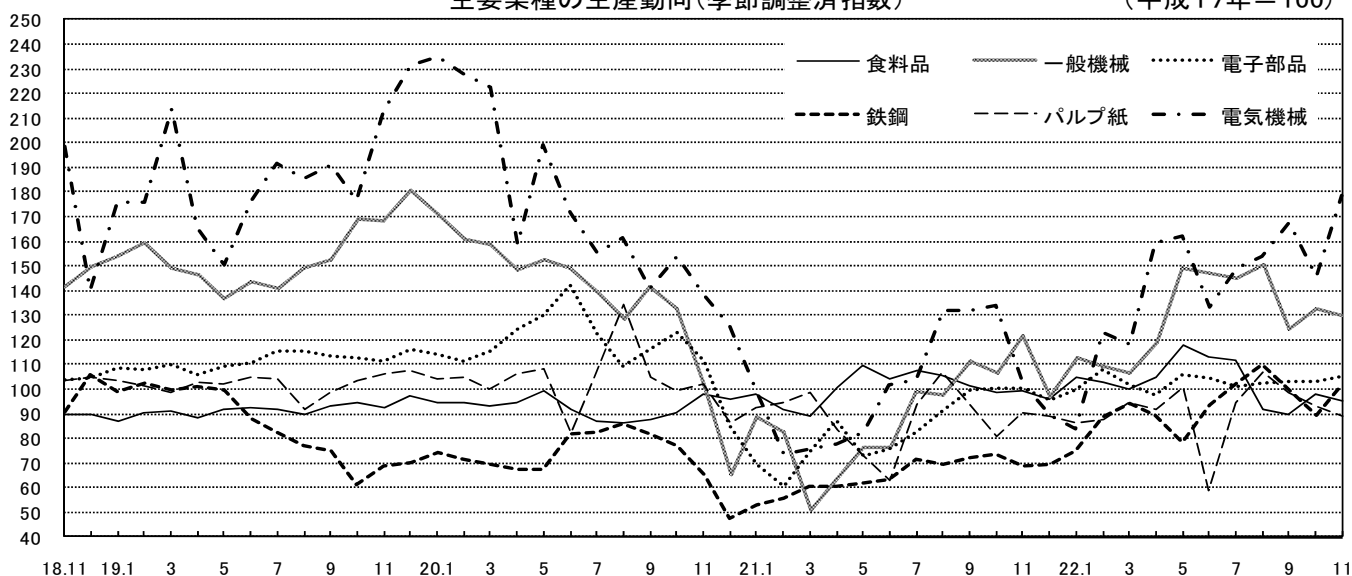


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 +8.3%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	700.0	47.6	食料品工業	-2.6	-6.5
電気機械工業	22.6	21.0	一般機械工業	-1.9	-3.6
鉄鋼業	14.0	14.6	パルプ・紙・紙加工品工業	-3.8	-3.3
金属製品工業	27.9	13.0	印刷業	-4.1	-1.1
繊維工業	15.3	5.7	皮革製品工業	-45.6	-0.2

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



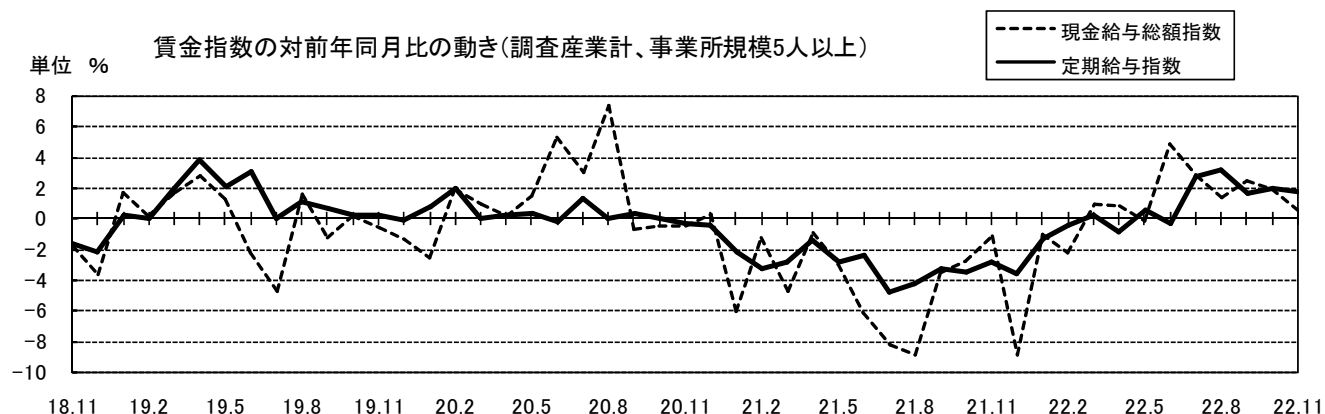
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成22年11月の定期給与は222,521円で定期給与指数(平成17年=100)では96.7となり、前年同月比1.7%増(現金給与総額224,978円、現金給与総額指数82.5、前年同月比0.5%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.4となった。

総実労働時間は158.2時間で、総実労働時間指数は99.3となり、前年同月比0.9%増となった。このうち、所定外労働時間は10.3時間で、所定外労働時間指数は104.0となり、前年同月比17.0%増となった。

平成22年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.42倍で、前月比0.02ポイント上回った。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

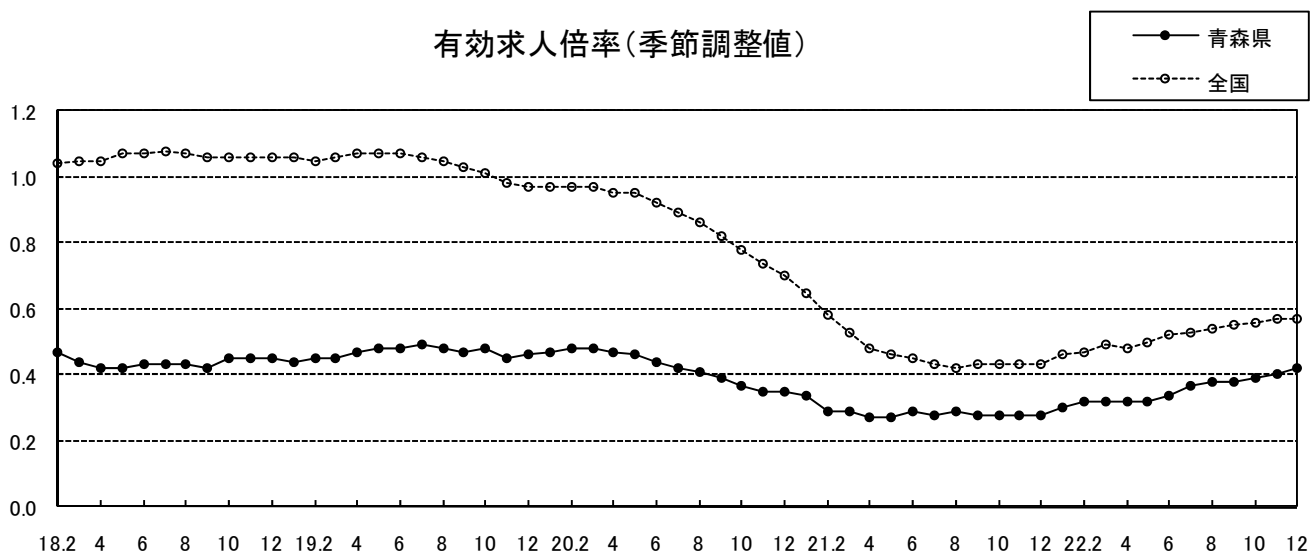
	実 数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	224,978 円	278,914 円	82.5	84.1	0.5 %	0.2 %
定期給与	222,521 円	263,500 円	96.7	97.5	1.7 %	0.3 %
特別給与	2,457 円	15,414 円	—	—	—	-2.3 %
総実労働時間	158.2 時間	148.7 時間	99.3	98.6	0.9 %	1.5 %
所定内労働時間	147.9 時間	138.3 時間	99.0	98.7	-0.1 %	1.1 %
所定外労働時間	10.3 時間	10.4 時間	104.0	98.1	17.0 %	6.1 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしています。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成22年12月の青森市消費者物価指数（平成17年=100）は、総合指数が99.9となり、前月及び前年同月とも同水準となった。

生鮮食品を除く総合指数は99.5となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.6%の下落となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は96.6となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ1.3%の下落となった。

総合指数が前月と同水準となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、交通・通信の上昇、食料、諸雑費などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と同水準となった内訳を寄与度でみると、諸雑費、光熱・水道の上昇、教育、住居などの下落が要因となっている。

なお、授業料等（高校授業料無償影響）を除く総合指数は100.8となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ1.0%の上昇となった。

図1 総合指数の動き

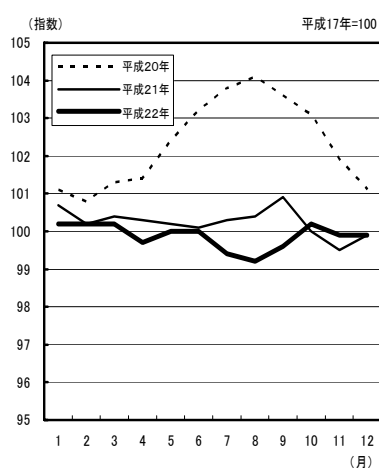


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

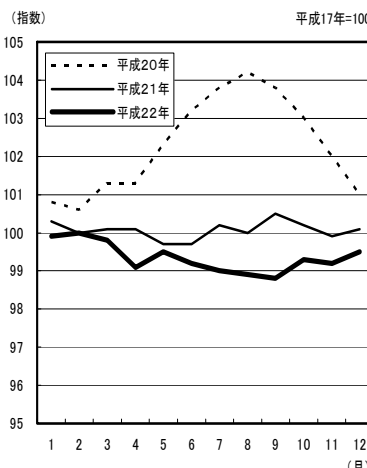
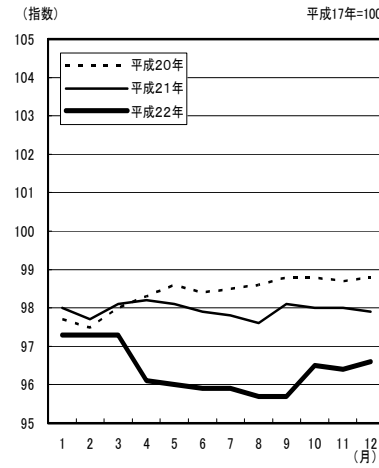


図3 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家 賃を除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・被服	被及履	服び物	保健	交通・通信	教育	教養	諸雑費
当月指数	99.9	99.5	100.4	96.6	102.7	107.2	98.1	109.3	90.0	104.9	98.4	99.2	72.9	92.3	108.6	
前月比 (%)	0.0	0.3	0.0	0.2	▲ 0.7	▲ 2.9	0.3	0.8	▲ 0.1	0.5	▲ 0.1	0.7	0.0	0.7	▲ 0.4	
寄与度	0.00	0.28	0.00	0.13	▲ 0.20	▲ 0.18	0.06	0.09	▲ 0.00	0.02	▲ 0.00	0.08	0.00	0.06	▲ 0.02	
前年同月比 (%)	0.0	▲ 0.6	0.2	▲ 1.3	1.2	12.0	▲ 0.7	3.3	▲ 3.7	2.6	0.5	0.5	▲ 28.6	▲ 0.9	7.2	
寄与度	0.00	▲ 0.57	0.17	▲ 0.83	0.34	0.65	▲ 0.14	0.35	▲ 0.11	0.11	0.02	0.05	▲ 0.89	▲ 0.08	0.41	

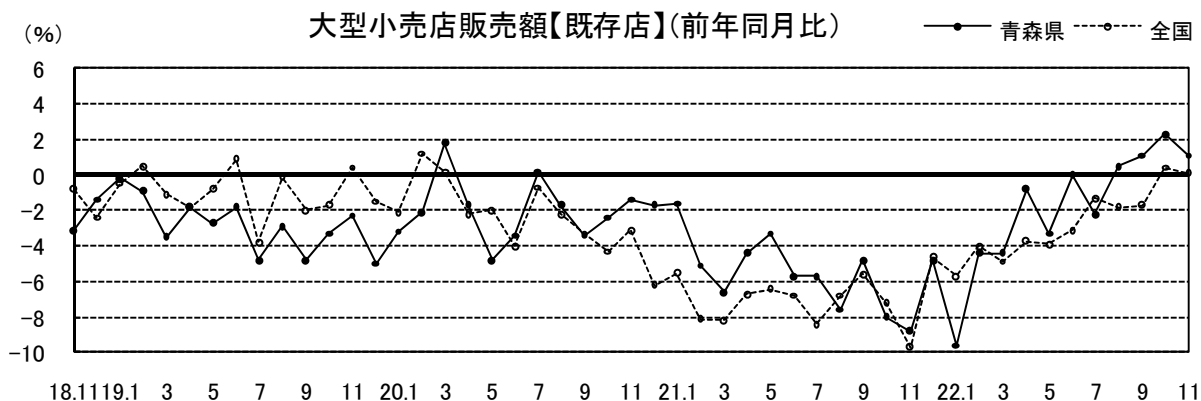
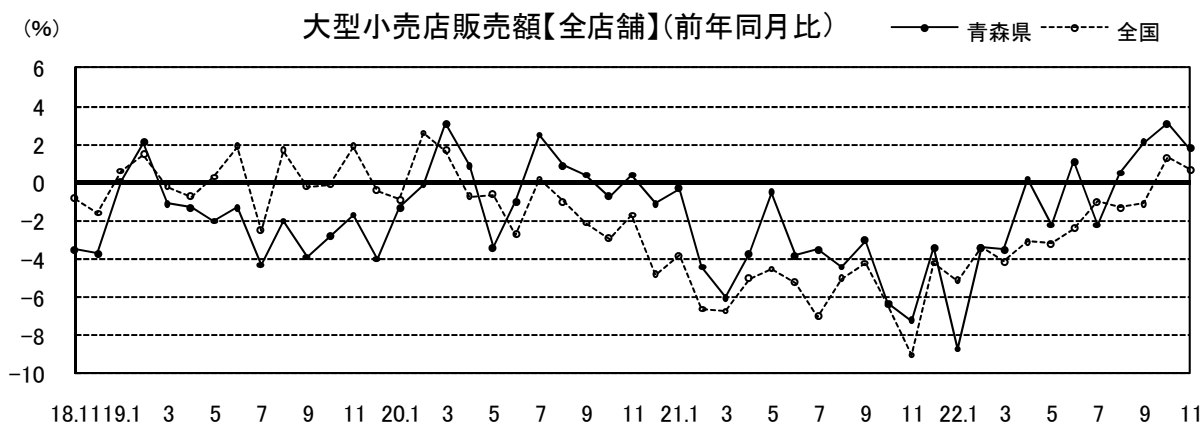
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

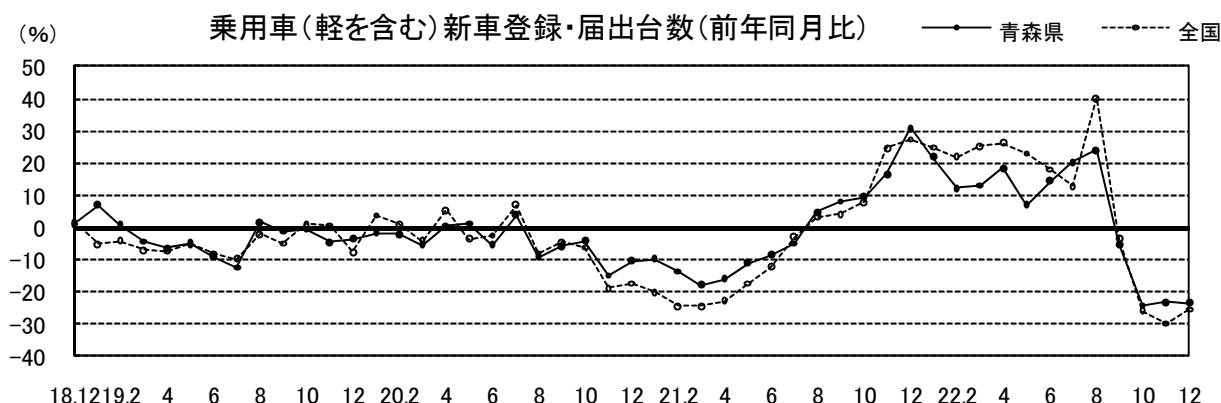
平成22年11月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが130億4300万円で前年同月比1.8%増となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは1.1%増となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。飲食料品、衣料品などが好調であったことによる。

平成22年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,100台で、前年同月比23.3%減となり、4ヶ月連続で前年同月を下回った。エコカー補助金の終了に伴い、普通車、小型車、軽乗用車いずれも減少したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

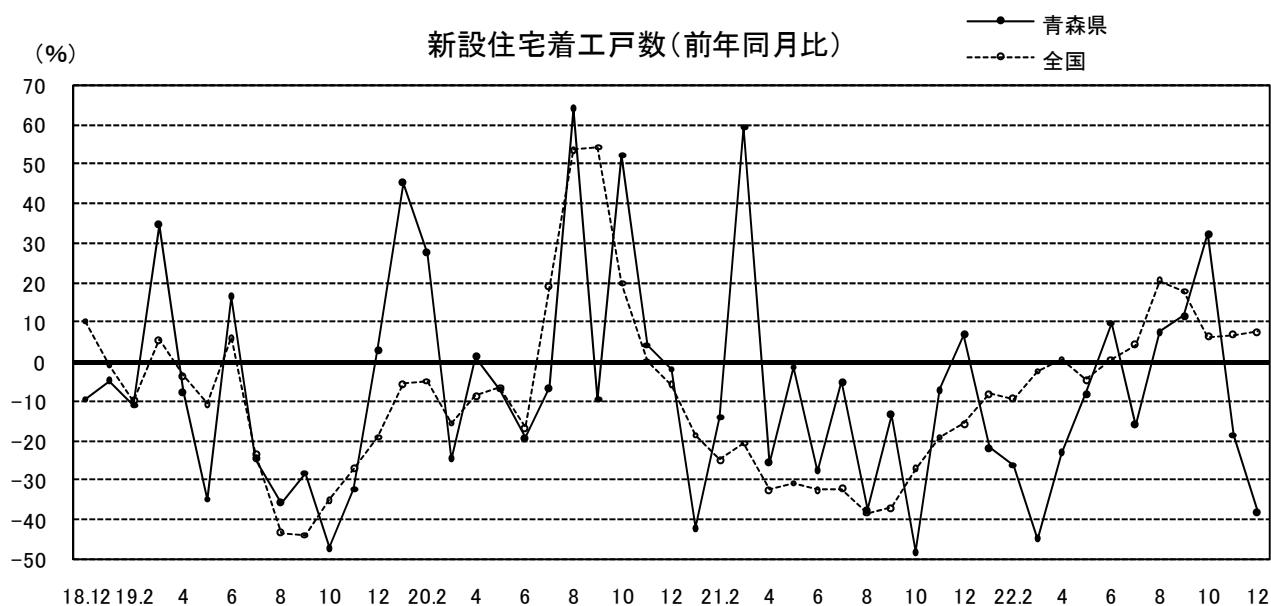
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

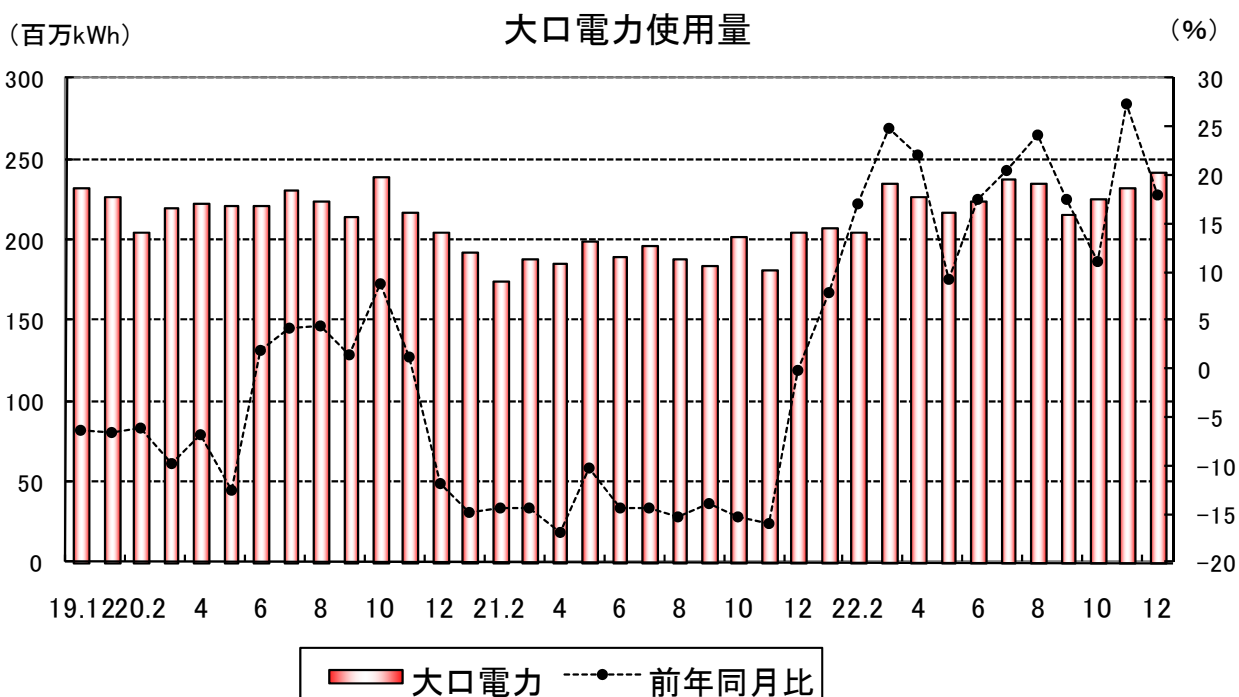
平成22年12月の新設住宅着工戸数は375戸で、前年同月比38.1%減となり、2ヶ月連続で前年同月を下回った。持家が増加したものの、貸家、分譲住宅などが減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 電力使用量

平成22年12月の大口電力使用量は2億4,200万kWhで、前年同月比17.9%増となり、12ヶ月連続で前年同月を上回った。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

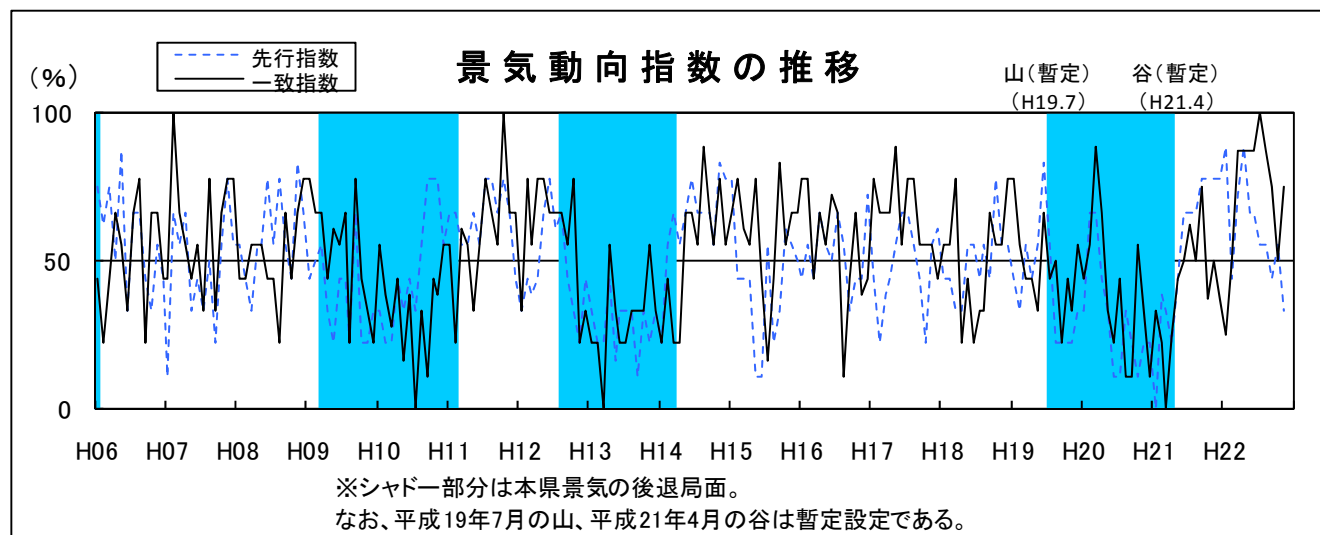
平成22年11月の青森県景気動向指数は、先行指数33.3%、一致指数75.0%、遅行指数50.0%となった。

先行指数は、2か月ぶりに50%を下回った。

一致指数は、2か月ぶりに50%を上回った。

遅行指数は、3か月ぶりに50%を上回った後50%となった。

11月の一致指数は、消費、生産関連等の指標がプラスになったことから、50%を上回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中3指標がプラス）			
新規求人倍率（全数）	4か月連続	乗用車新車登録届出台数	3か月連続
入職率（製造業）	2か月ぶり	生産財生産指数	5か月連続
中小企業景況DI	8か月連続	所定外労働時間指数	3か月連続
		新設住宅着工床面積	6か月ぶり
		建築着工床面積	2か月ぶり
		企業倒産負債額	2か月ぶり
一致系列（8指標中6指標がプラス）			
大型小売店販売額（既存店）	10か月連続	総実労働時間数（全産業）	2か月連続
鉱工業生産指数	3か月ぶり	海上出入貨物量（八戸港）	2か月連続
電気機械生産指数	2か月ぶり		
大口電力使用量	2か月連続		
有効求人数（全数）	10か月連続		
日銀券月中発行高	3か月連続		
遅行系列（6指標中3指標がプラス）			
勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月連続	常用雇用指数（製造業）	2か月連続
単位労働コスト（製造業）	5か月連続	1人平均月間現金給与総額	4か月連続
青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	2か月連続	輸入通関実績（八戸港）	5か月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

※一致系列の物流関連指標「東北自動車道IC利用台数」については、平成21年3月28日から実施された「休日のETC特別割引」（料金上限1,000円）と、平成22年6月28日から実施された「高速道路の無料化社会実験」（青森道・八戸道）による影響を受けるため、当面の間、判定に用いないこととする。

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

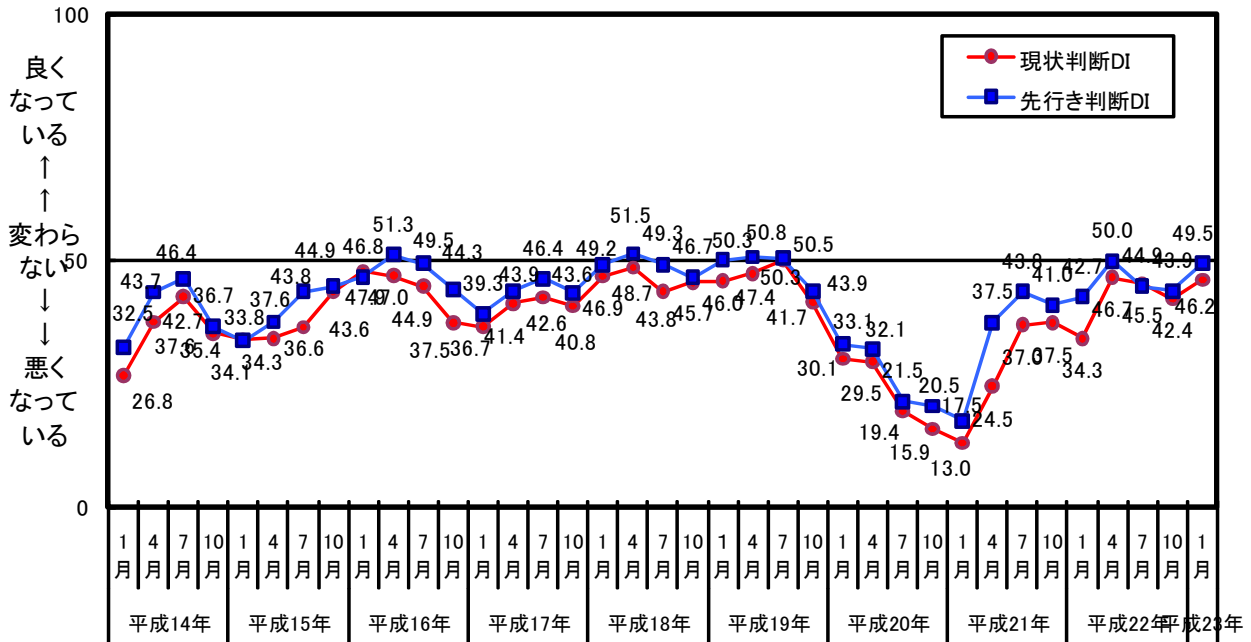
平成23年1月期の景気ウォッチャー調査は、1月4日～1月17日を調査期間とし、回答率は99%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは46.2で、前期調査を3.8ポイント上回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは49.5で、前期調査を5.6ポイント上回った。

1月期は、景気の現状判断DIは14期連続、先行き判断DIは3期連続で、横ばいを示す50を下回っているものの、ともに前期を上回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3か月前と比べた景気の現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が7.1ポイント増加、「悪くなっている」が3.0ポイント減少したことにより、全体では3.8ポイント上昇の46.2となり、景気の横ばいを示す50を14期連続で下回った。</p> <p>判断理由をみると、悪い状況が変わらない、原油高や天候不順のための食料高が厳しいという声があった。一方で、買い物客のモチベーションの上昇を感じた、新幹線開業効果があったという声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、全地区でポイントが増加し、東青地区では、景気の横ばいを示す50を上回った。</p>
--------	---

● 3か月後の景気の先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「やや良くなる」が5.0ポイント、「変わらない」が5.1ポイント増加し、「悪くなる」が10.1ポイント減少したことにより、全体では5.6ポイント上昇の49.5となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。</p> <p>判断理由をみると、政局不安で消費者が安心してお金を使えない、景気が良くなる材料がないという声があった。一方で、春からの観光シーズンに新幹線効果を期待する、地元の人の気分も上向くのではないかという声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、東青地区でポイントが減少し、津軽、県南、下北地区でポイントが増加した。東青地区では、景気の横ばいを示す50となり、津軽地区では、50を上回った。</p>
--------	--

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 観光業として、新青森駅開業は非常に大きい。例年の数倍の予約が入っている。（例年が非常に少ないので何とも言えないが）（観光名所等=東青）
- クリスマス商戦は苦戦したものの、秋頃から売上数値は伸びている。客数は昨年と変わらないが、客単価がアップしており、特にモチベーションにおいてその傾向が見られる。（百貨店=津軽）
- 長い間続いてきた売上減少に歯止めがかかってきたような気もしている。円高の影響もあるのか海外の企画募集も比較的良好な状況である。（旅行代理店=県南）
- 求人数は全体的に増加の傾向にあるが、地域の差は未だ大きい。（人材派遣=東青）
- 売上げは、ここ数ヶ月、昨年と変わりません。この辺が底であって欲しいですが。（タクシー=東青）
- 客数が伸びず、なかなか客単価もあがらず苦戦してます。（衣料専門店=県南）
- 12月年末近くの消費動向が悪かった。春迄は、このままの様な感じがする。（食料品製造=下北）
- △冬期間になり、灯油代等の出費のせいか、再び買い控えの傾向になった様に思います。（一般小売店=下北）
- △エコカー補助金の終了とエコポイントの削減の影響で受注が減少しているから。（電気機械製造=津軽）
- ×店の売上、来店客数など。下見のお客が多い。（家電量販店=県南）

● 3か月後の景気の先行き判断理由

- ◎新幹線開業により良くなって欲しいと願っているため。（一般小売店=津軽）
- 春になるため動きが出てくるのではないかと？県外からの出店の話を多少聞くようになった。（住宅建設販売=県南）
- 新幹線開業効果に加え、弘前城築城400年祭のイベントが本格化する。行政に頼り切りではない民間や各種団体の動きも活発化しており、確実な盛り上がりが見込める。（新聞社求人広告=津軽）
- 原発関係の仕事が増えるだろうという希望的観測からです。（コンビニ=下北）
- 決して悪くはないと思うが、国内経済の見通しがたたない。（旅行代理店=東青）
- 店内だけの販売だけでなくインターネットでの販売も始まっているので、3カ月前先すぐに変えると思いませんが厳しくなる要因の方ばかり増えているようです。（衣料専門店=県南）
- せっかく原子力関係が動き出してプラス傾向と思ったが、新卒者の雇用等暗い見通しで金があっても使いづらく状況が続くと思います。（タクシー=下北）
- △世界的天候不順で輸入、輸出等いろいろな面で不安がつるばかりです。（コンビニ=東青）
- △これだけ不況になると民間企業に活力がなく建築関係の物件が少なすぎる。（設計事務所=津軽）
- ×公共工事予算の減少が止まらない。（建設=県南）

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」